


参考図書室をあるこう

3



新しく参考図書室に入った本を  (本名 ブタンク BOOとも呼ばれる)が紹介します。



請求記号●X-010b B

X-010b 楽語・事項事典 楽語・楽曲名の言い換えに関するもの

Langenscheidt Schott Musik / von Roberto Braccini. 2. Aufl. 2009

ランゲンシャイト・ショット社 実用音楽用語集 第2版 本文は4ヶ国語

伊、英、独、仏語の音楽用語集。弦楽器、管楽器、打楽器、鍵盤楽器…、声乐、楽譜、音楽理論、日常語に大きく分けて、それぞれよく使われる単語(通し番号付1~3529)を4ヶ国語で言い換えてあります。さらに、各言語固有の単語や表現(全部で700語弱)と、有名曲100曲タイトルの4ヶ国語言い換えの付録つき。著者のロベルト・ブラッチーニはフィレンツェで音楽を学び、現在はルガーノ(スイス)のスヴィッツェラ・イタリアーナ音楽院でピアノ教授法を教えています。

*目次と使い方説明: 4ヶ国語で表記

*索引: 本文掲載全単語 [言語略号付] (付録の700語弱は除外)



スイスは伊・独・仏語いずれも公用語、なるほど納得。この本は海外の音楽セミナー参加や音楽旅行で役立つかもしれないね。X-010bの棚には、他にもいろいろな言語の楽語言い換え事典が並んでいる。

X-075 弦楽器及びその音楽に関する参考図書

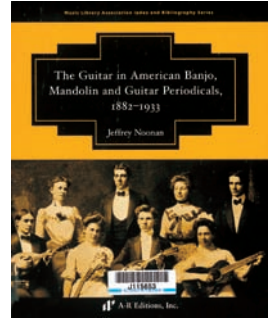
The guitar in American banjo, mandolin and guitar periodicals, 1882-1933 / Jeffrey Noonan. 2009

アメリカのバンジョー、マンドリン、ギター雑誌(1882-1933年)に見るギター

本文は英語

1880年代から1930年代半ば、アメリカ合衆国でBMG運動と呼ばれる運動が盛んでした。バンジョー(B)、マンドリン(M)、ギター(G)の楽器奏者たちが独奏、アンサンブル、オーケストラ編成でダンス音楽からクラシック作品まで盛んに演奏し、楽器製作者、教師、出版社の活動も活発だったそうです。長い間図書館の隅で眠っていた資料の調査により、ほとんど忘れられていたこの運動に光が当てられました。年代順の雑誌記事リストには、宣伝を含む記事・論文、イラスト・写真、ギター作品楽譜、5500件が掲載されています。

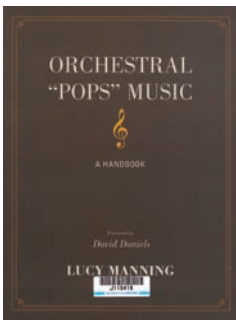
*索引: 人名・団体名・用語、主な宣伝項目、ギター作品(タイトル、編成)



請求記号●X-075 N



日本でも20世紀はじめにイタリアからマンドリンが入って、1910年代には大学のマンドリンオーケストラも誕生した。この時代、太平洋の両側でこうした活動があったとわかると興味がわくね。



請求記号●X-078b M

X-078b 管弦楽に関する参考図書

Orchestral "pops" music: a handbook / Lucy Manning. 2009

“ポップス”管弦楽: ハンドブック 本文は英語

ポップス・コンサートのレパートリー、650人を超す作曲家による2000曲あまりをリストアップした待望の新刊です。作曲者順に並べられた本文は、演奏時間が一目でわかる表形式で、タイトル、編成、編曲者、ジャンル/テーマ、楽譜の出版(絶版の場合はレンタル情報)が記されています。編成の表記は数字と略号によるので、序文にある説明をよく見てください。楽器編成、演奏時間、タイトル、そしてテーマ別の詳細な索引がついているので、様々な観点から曲を探ることができます。

曲の選定のために、著者はアメリカ交響楽団連盟に属するオーケストラでポップス・コンサートを開催している約600団体に、過去5シーズンのプログラム提出を依頼し、100近い団体から回答を得たそうです。同じ出版社Scarecrowから、Orchestral music Handbook(クラシック編)も出ています。


*索引: 楽器編成、演奏時間、テーマ、タイトル



テーマは、動物、環境、ファンファーレ、ポピュラーソング、季節、宇宙、スポーツ、国・地域、などなどいろいろ。実用的なので、コンサート・プログラムを考える人の力強い味方になると思う。



今回の3冊は、数字とアルファベットが並んでいるだけで一見地味だけど、中身はユニーク。前書きを見ると、それぞれ著者の熱い思いがジュワジュワと伝わってくる。

図書館ホームページ <http://www.lib.kunitachi.ac.jp> 新刊情報→参考図書  で紹介しています。